

イシイルカ 太平洋・日本海・オホーツク海

Dall's Porpoise, *Phocoenoides dalli*

イシイルカ型



リクゼンイルカ型



管理・関係機関

水産庁、漁業道県

最近一年間の動き

東日本大震災以後、操業が再開されたものの、2012 年の捕獲は低レベルだった。

生物学的特性

- イシイルカ型とリクゼンイルカ型の 2 型
- 寿命：15 ～ 20 歳（詳細は未説明）
- 性成熟年齢：雌 3 ～ 4 歳、雄 4 ～ 6 歳
- 繁殖期・繁殖場：晩春から夏、オホーツク海（成熟雌は 1 ～ 2 年毎に出産）
- 索餌期・索餌場：周年・北海道沿岸、オホーツク海、三陸沖
- 食性：ハダカイワシ類、スケトウダラ
- 捕食者：シャチ

利用・用途

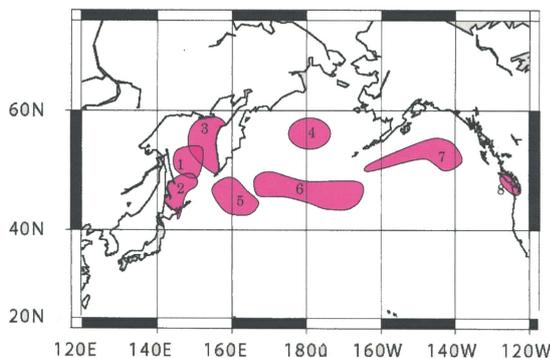
刺身、煮物など

漁業の特徴

北海道、青森県、岩手県及び宮城県で知事許可漁業である突きん棒で捕獲されている。この漁業による本種の捕獲頭数は、現在、我が国におけるいか類の捕獲頭数の中で最大である。捕獲頭数は岩手県船が卓越している。操業は 5 ～ 6 月と 9 ～ 10 月に北海道周囲で、11 ～ 4 月に三陸沖で行われる。リクゼンイルカ型は 1 系群である。イシイルカ型の大多数は日本海-オホーツク海系群である。

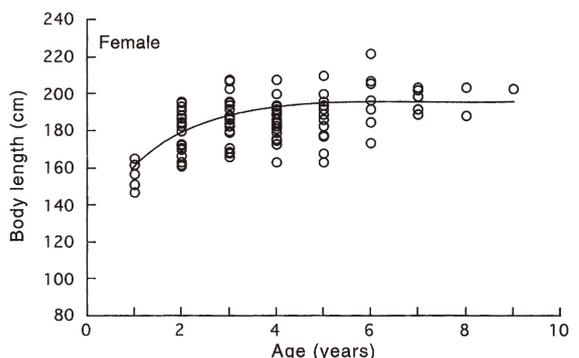
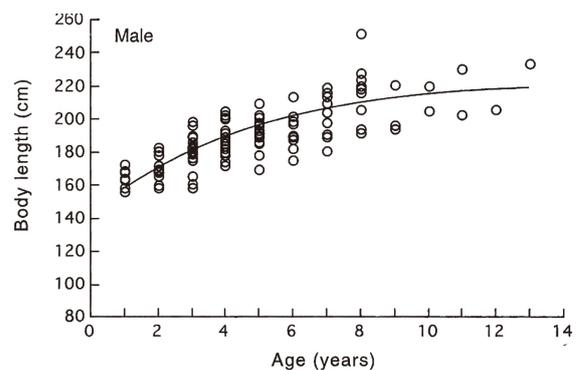
漁業資源の動向

1987 年以前は年間 2 万頭以下の捕獲であったが、商業捕鯨モラトリアム以降は鯨肉の流通不足を補うためか、1988 年に捕獲頭数が 4 万頭以上へと急増した（この年までは、2 つの型が統計上区別されていない）。その後は捕獲枠導入によって両型合計 15,000 頭程度水準が続いたが、近年は浜値低迷と燃油高騰などで操業が縮小し捕獲も 1 万頭程度で推移していた。また、東日本大震災の影響で 2011 年以降の捕獲はさらに減少した。したがって、近年の捕獲頭数が少ない状況は経済的要因や大震災の影響が考えられる。



北太平洋のイシイルカの分布

1 はリクゼンイルカ型系群。2 はイシイルカ型の日本海-オホーツク海系群。3 ～ 8 はイシイルカ型他系群の各繁殖海域



イシイルカ型イシイルカの成長曲線（上：雄、下：雌）

資源状態

イシイルカ型は 1980 年頃から開発された資源と考えられるが、リクゼンイルカ型の漁獲は戦前からの長い歴史がある。両型の資源水準は、調査海域の制限・操業形態の変化により限定的な状況にあるが、資源動態モデルでの検討を行っている。近年、捕獲頭数は変動あるいは減少しているが、上記のように経済的要因や大震災の影響が考えられ、資源動向は依然横ばいと考えられる。

管理方策

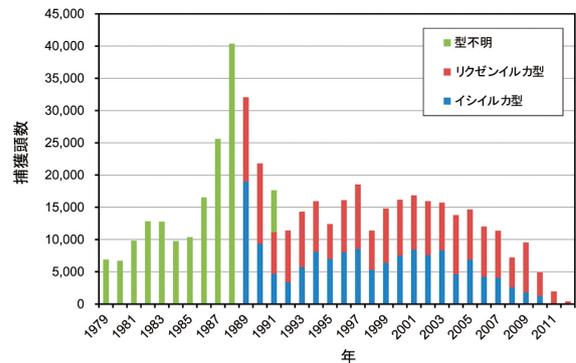
鯨類の再生産率は 1～4% と経験的に考えられている。出産間隔から本種の再生産率が高い方 (3～4%) であることがうかがえる。これに捕獲実績等も加味して 1993 年に水産庁が捕獲枠を設定した。水産庁は 2007 年に本種の管理に PBR (Potential Biological Removal) の概念を適用した。

資源評価まとめ

- 目視調査に基づく資源量推定値
- 管理目標は現在の資源水準の維持

資源管理方策まとめ

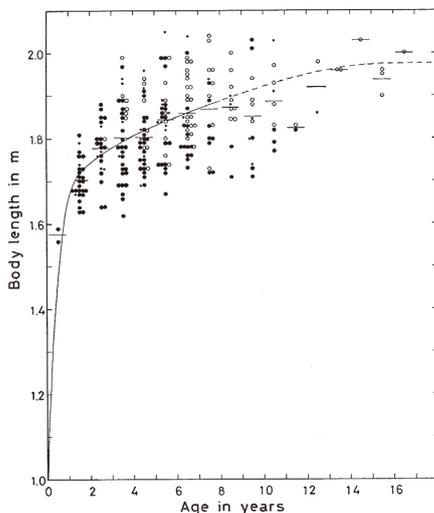
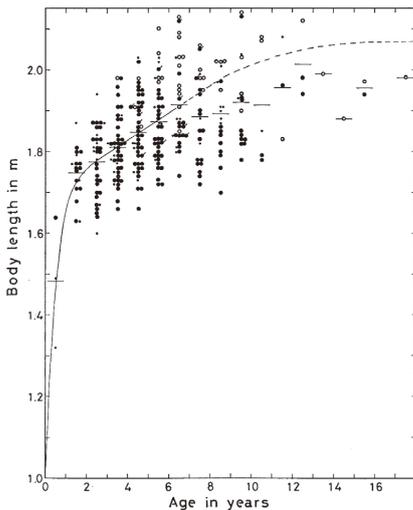
- 操業海域の道県知事による許可制
- 体色型別の捕獲枠の設定
- 漁期の設定
- 捕獲統計の集計
- PBR の導入



イシイルカ捕獲頭数の推移 (1979～2012 年)

2012 年度型別・道県別捕獲枠 (単位: 頭数)

体色型	道県	2010年度	2011年度	2012年度
イシイルカ型	北海道	1,296	1,244	1,192
	青森県	12	10	8
	岩手県	6,224	5,975	5,726
リクゼンイルカ型	北海道	89	86	83
	岩手県	7,308	7,060	6,811
	宮城県	241	231	221



リクゼンイルカ型イシイルカの成長曲線 (上: 雄、下: 雌)

イシイルカ (太平洋・日本海・オホーツク海) の資源の現況 (要約表)

資源水準	調査中
資源動向	横ばい
世界の捕獲量 (最近 5 年間)	—
我が国の捕獲量 (最近 5 年間)	0.04～1.2 万頭 平均: 0.5 万頭 (2008～2012 年)